

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272000116		
法人名	社会福祉法人 旭福社会		
事業所名	やすらぎ園認知症高齢者グループホームまどい		
所在地	千葉県旭市イの3925番地2		
自己評価作成日	平成22年1月31日	評価結果市町村受理日	平成22年3月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号
訪問調査日	平成22年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

やすらぎ園グループホームまどいは10年前に設立された千葉県第一号のグループホームです。「一人ひとりを大切にしたい質の高い介護サービスの提供」を理念に掲げ、明るい職員と一緒に皆様に美味しく楽しい食事、多様な外出、リハビリ体操等生活を支援していきます。その他、協力医療機関として田辺病院、敷地内にやすらぎ歯科クリニックがあり、医療連携体制が充実しています。更に、複合福祉サービスの多機能性を生かした共通総合イベントや施設設備の相互活用の利点があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合福祉サービス施設「やすらぎ園」の中に立地し、建物は木造2階で吹き抜けのある居間は採光が良く、家庭的な居住空間が作られている。初詣、七夕、葡萄狩り等の季節のお出掛けの他に利用者の希望にそったドライブや地域住民の集まり等多様な外出支援を行っている。また食事が楽しめる様に一緒に盛り付けしたり、週に数回利用者主導のメニューのおやつ作りで楽しんでいる。協力医療機関の受診往診は密に行われ、歯科医も同一敷地内にあり、利用者・家族に好評である。運営推進会議で利用者満足度調査票やご意見相談票の制度化の検討等、利用者本位の介護を目指す理念の実現に向けて取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修や年度初めの全体会議等で法人全体で理念の確認をしている。一人ひとりに対してその人にとってのよいケアは何か、日々観察を行いカンファレンス等で話し合っている。	毎月の全体会議の配布資料に理念と事業方針、事業目標が掲げられ、理事長から当月の重点目標などの訓示と共に周知徹底が図られている。当ホームとしても重要事項説明書や事業計画書の冒頭に理念・方針を掲げ、ホーム内外に向けて共有及びその実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市で開催されている菊見学や地域の幼稚園の運動会に参加したり、民家のイルミネーション見学に行く等地域の方々と交流している。	地域で主催される文化祭、菊花展、七夕祭、幼稚園運動会などに積極的に参加したり、地域に開放された法人主催の納涼会、餅つき大会などを通じて地域の人々との交流が図られている。最近では地元住民からの呼びかけでひまわりやコスモス園の見学やつるし難展などの集まりにも気さくに参加して交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の近所の友人等が面会時に、認知症の症状等について質問を受けた時、職員が応答している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	家族向けの満足度調査をどのように工夫したら書きやすいか検討したり、外部評価の改善課題の検討、家族会の内容の話し合い、日常生活や行事風景の写真を公開している。	運営推進会議は参加しやすい様に土曜日開催することとしている。外部評価結果および利用者満足度調査を中心議題として年3回行われている。他に日常ケアからの課題や提案事項を上程し、出席者の意見を拝聴する事で、ケアサービスの改善に繋げている。	会議で検討された利用者満足度調査のアンケート質問票は当ホーム独自の調査票との事だが、毎年実施される外部評価の利用者家族アンケート調査と一元化し、記入者が書きやすい有効な満足度調査票が検討されることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらっている他、月に一度利用者名簿待機者名簿を届けており担当者とお会いする機会あり。また、不明なことがあった時等、電話で相談ののってもらっている。	市担当者とは運営推進会議出席や利用者名簿、待機者名簿報告及び相談対応等で連携している。以前に市主催の認知症高齢者グループホーム情報交換会が行われたが、行政との協働関係作りの契機となっている。	市内、近隣のグループホーム間の情報交換会の継続的開催の定着化に向けて、市担当者と協働するなど弛まぬ努力を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としてマニュアルがある。また、委員会を通して問題点を話し合い、議事録で内容を共有し日常のケアに活かしている。	法人内で身体拘束虐待防止委員会活動が行われマニュアルも整備している。委員会の議事結果は全員に情報共有され日常ケアに活かされている。日中は玄関の施錠はせず開放し、外出ぐせのある利用者には散歩に誘う等、気配りが図られている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で委員会があり、研修の内容や事業所での問題点など議論する機会がある。委員会に出ていない職員も内容がわかるよう議事録を回覧している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員はパンフレット等を回覧している。今現在活用している方はいない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の際には、利用者や家族に十分に説明をし、理解・同意を得た上で捺印を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員が本人の話をよく聞き、その場で解決出来ない事に関しては、会議で検討したり、家族と相談していく。外部評価での家族アンケートや家族会で意見交換し、家族の思いも聴いている。	利用者の言動からの把握や、訪問された家族からの話しを聞くことから利用者の意向が把握されているが、新たにご意見相談票様式を設け、利用者からの苦情や意見を、サービスに反映する取組みを開始している。	新設された「ご意見相談票」を制度化し、組織的に定着化させる努力を期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時(日課の見直しや外出先等)その都度相談している。また、会議で意見や案をまとめて文書で提出し決裁をまわしている。	日常のケアの見直しなどの職員からの提案意見は毎月行われるチーム会議で検討後、園長の決裁を受け、実行に繋げている。また重要な実行内容は全体会議に報告することになっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は積極的に必要な資格取得のチャレンジを応援している。その他、勤務の希望を取り入れ、働きやすい環境を作っている。また、リフレッシュ休暇制度もあり、職員の気分転換が図れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員研修、各種委員会や内外の研修等で学んでいく機会を設けている。参加した職員が全体会議の場で研修報告する仕組みがある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修(認知症介護実践者研修等)に参加した時に同業者と交流する機会がある。また、研修に来た職員と意見交換をする事が時々ある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の受け入れや利用前の本人との面接などで話を聞いている。職員は情報を共有し声のかけ方等ケアに活かしている。希望により体験利用をされた方もいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时・入居が決まって契約・利用となる間、話をよく聞くよう努めている。また、電話など法人の支援センターでいつでも話を聞くことが出来るしくみがある。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談は法人の在宅介護支援センターで受け付け、介護支援専門員や生活相談員が対応し、必要としている支援を見極めアドバイスしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から洗い物等家事を一緒にやりながら会話、コミュニケーションをとっており、その中から利用者の性格等を理解し、日常生活の支援をしている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が不穏な時等は都合がつく時は面会に来て頂いたり、電話で話をしてもらおう等協力をしてもらっている。また、外出・外泊を勧めたり、通院の付き添いをお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族が昔からの知り合いや近所の友人等にも住んでいる所を知らせてくれており、面会に多方面から来てくれている。一緒に外出される方もいる。	利用者は市内在住者が多いこともあって家族はほぼ毎月来所されている。家族の口コミで昔なじみの知り合いが多方面から面会に来所されている。また家族に依頼をして利用者の生まれ育った懐かしい場所などに連れて行っていただいている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員は把握し、トラブルにならないよう、間に入るよう心がけている。その他利用者がお茶を入れてくれたりテーブルを拭いたりそれぞれが役割をもって生活をしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから併設の特養に移る方が多く、関係を継続している。退居された方も法人で相談を受け入れる体制がある。その他、体調不良により一度退居された方も状態によって再度待機者に申し込みされる方もいる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から利用者の希望や意向を見つけて一緒に考えている。他、家族から昔の生活風景や性格等を聞き、穏やかに暮らせるよう支援している。	入居時には利用者・家族、介護支援専門員や利用していたデイサービス、ショートステイの介護職員から得た情報により、希望、意向を把握している。入居後は日常生活の様子や会話から思いや意向を把握している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や担当ケアマネから生活歴等を聞き情報を把握し日常のケアや会話に役立てている。本人の趣味や特技等を表にまとめ職員で共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアチェック表や日誌にその日の暮らしの様子や変化のあったことを記録し、できること、わかることの力の発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、看護師、担当者と話し合い、計画し家族にも説明し意見を求めている。カンファレンスに家族は参加されないが、面会時に意見を伺うようにしている。	面会の家族から入居者の様子や会話で気づいたことを聴いて、カンファレンスに反映させている。健康面をみている看護師、栄養面の栄養士、介護職のチームがカンファレンスを開き、居宅サービス計画書を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアチェック表や日誌にその日の暮らしの様子や変化のあったことを記録し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴等本人の状態に応じて併設の特養のリフト浴を利用することもできる。その他出張店にお菓子を買いに行ったりしている。また、口腔内で不具合が出来た場合、すぐに歯科衛生士に診てもらっている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園の運動会に応援に出かけたり、市で開催している七夕祭り等に出かけ、楽しまれていた。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との関係が密であり、受診・往診もすぐに対応出来る体制になっている。歯科が敷地内にあり、適切に治療が受けられるようになっている。	協力医療機関の医師が受診・往診している。歯科も同一敷地内にクリニックがある。眼科や整形外科などのかかりつけ医の通院は原則家族対応になっているが、困難な場合はグループホームが支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師が利用者の健康管理を行っており、協力医療機関との連絡が密である。ケアプラン作成時も助言をもらっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常時協力医療機関と連絡を取れる体制であり、退院後も主治医が往診にきてくれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の変化に備えてチームとしての支援が取り組めるよう指針を作成している。利用者の入居契約時に「重度化した場合における対応の指針同意書」で指針の説明・同意を頂いている。	入居時に重度化した場合における対応の指針を説明し、同意を得ている。看取りについては指針とマニュアルはできており、同じく入居時に希望すれば看取りができる仕組みがあることを家族の負担も含めて説明して、理解を得ている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員が救命救急講習(AEDも含む)を受け、対応出来るよう訓練している。また、緊急時のマニュアルもあり、見ながら落ち着いて対応出来るように備えてある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回防災の避難訓練を行っている。また、避難誘導マニュアルがあり、職員は手順等を把握している。消防署が近隣にあり日頃から関係を作っている。法人で災害時に備え食品等の物品の準備もしている。	防災避難訓練は春の消防職員による消化訓練、園主導の日中訓練、夜間想定訓練と年3回行われている。昨年来の懸案事項であったスプリンクラー設置は検討中だが、避難しやすくする非常階段の設置を含めて多角的に検討し見積もりを取っている。	スプリンクラー設置や非常階段設置の多角的検討については2年越しとなっているが、もう少しスピーディな検討および決裁が望まれる。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の話を聞き、言葉遣いも気をつけている。個人情報の取り扱いや、プライバシーのマニュアルもあり、研修や全体会議、朝のミーティング等で確認し職員が尊厳を損ねるようなことはしないよう努めている。	入浴、トイレ時の気配りや言葉づかいなどに対して、プライバシー保護マニュアルの整備と共に法人全体の職場規律を定め掲示することで、徹底が図られている。また、個人情報保護において、USBなどの外部記憶媒体の園外持ち出し禁止など規程を強化し事故防止を図っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日に着る服や持ち物を選んだり、外出時に好きな柄の湯呑みや箸を選んだりしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者から散歩にいきたい、縫い物をしたいたい等要望があるときには出来る限り要望に沿えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のその日着たい服と一緒に選んだり、行事等特別な日には爪にマニキュアや口紅を塗っている。美容室で髪を染めたり、化粧を出来るよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりお茶入れやおかずの盛り付け等得意な事に日々参加している。また、月に1度の自炊で買い物から片付けまで一緒に行ったり、週に1度のおやつ作りは生き生きと作ってくれる方もいる。	日常は併設事業所が調理したおかずを利用者も一緒に盛り付け、グループホームで炊くご飯とお味噌汁を職員と一緒に召し上がっている。週2～3回は利用者主導のメニューで全員参加のおやつ作りを楽しまれている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事形態や量を連携病院から指示をもらったり、多職種で相談して支援している。食事は一日1500kcal前後で提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけをし、職員が仕上げ磨きをしている方もいる。月に一度歯科衛生士が口腔体操や口腔環境の確認をしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に毎回記入しており、なるべく失敗のないように一人ひとりの時間に合わせてトイレの声かけをしている。日中紙パンツから布パンツになった方もいる。	排泄の記録からパターンを把握し、声かけ・誘導して、トイレでの排泄を支援している。また、急ぎ足になる、落ち着かない仕草をするなどの排泄サインを見逃さず、声かけ・誘導して、失敗のない排泄に取り組んでいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は特養栄養士が立てた献立でバランスを取っている。予防の為に毎日のラジオ体操や週2回の法人での運動プログラムを実施、その他冷たい牛乳を飲む方もいたり、時間をかけてトイレに座ってもらい自然に排泄できる様、促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は午後に行う事が多く、声かけする方も大まかにグループ分けされているが、本人より希望があった時は柔軟に入浴して頂いている。拒否のある方は無理には勧めず、後日声かけしている。	水曜日と日曜日以外はお風呂を沸かしており、利用者は週2から3回入浴されている。体調チェックは毎朝検温と主治医指示の利用者は血圧を測定している。入浴を嫌う利用者はタイミングを見計らう事や入浴日を変更するなどの配慮をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具については本人に合ったものを個別に用意して頂いている。眠る時間は特に決めておらず、夜更かしにならない程度に本人に任せて休んでもらっている。起床時間も本人の体調や気分に合わせている。日中身体を動かす機会を作ったり、部屋の温度や湿度を調整し夜間ゆっくり休めるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の既往症等職員は情報を共有し、主治医・看護師と服薬状況等連携を図っている。また、服薬一覧表があり、内容を確認している。服薬マニュアルにより誤薬も防いでいる。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を職員は理解しており、歌が好きな方、散歩・裁縫が好きな方、料理が好きな方等本人の興味のあることや好きなことに職員と一緒に取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行きたいとの希望があった時には職員が付き添い出かけている他、週1回併設の特養で施設長のピアノによる歌の集いや月1回ケアハウスでパドル体操等身体を動かしている。また、個別に生まれ育った町をドライブしたり、好きな料理を食べに行ったりしている。春に一泊旅行も検討中。	日常は散歩のほか、洗濯物干しやグループホームの牛乳を併設施設まで受け取りに行くなど戸外には頻繁に出掛けている。また初詣、ぶどう狩り、七夕など季節のお出かけのほか生まれ育ったところや海を見に行きたい利用者の希望でドライブもしている。さらに今年の春は家族と一緒に一泊旅行も検討している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常では財布は事業所が管理しているが、歯科受診した時や外出した際に本人に支払いしてもらっている時もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚から手紙や写真が送られてくる方もいる。家族に連絡する際には本人とも電話をつなぎ会話している。今年は本人直筆のメッセージが入った年賀状を作成し、家族に送った。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは入っている時は電気が自動でつき他の利用者がいきなり入ることがないように仕組みになっている。台所の高さも使いやすい。壁には季節の貼り絵を飾ったり、クリスマス等には飾りで演出している。居間も吹き抜けで開放感がある。	吹き抜けの居間は採光と開放感で居心地のよい空間になっている。また、空気が澁まないように適度の換気や設置の温度・湿度計により室温と湿度の調節をしている。雛人形や七夕飾りなどで季節感や利用者の手作りの作品を展示して生活感を演出している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2階のテーブルでは夜何人かで話をしていたり、1階の洗面所の椅子でも日中楽しそうな笑い声が聞こえてくる。独りでうたた寝している方もいる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のなじみの家具や洋服、写真等を家族と一緒に持ち込んでいる。季節で入れかえてくれる家族もいる。	馴染みの箆笥、ベッドや自宅で飾っていたお孫さんの写真を持ってきている。入居後は家族と作ったクリスマスのリースや正月の凧などを飾っている。居室内の柵やシーツ交換は職員と一緒にこなしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の部屋の入り口に名前をかけ分かるようにし、混乱を防いでいる。トイレは車椅子でも中まで入れるようになっている。キャスターのついた柵がすべて危険だったので利用者が歩かない方に移動した。また、利用者は手すりにつかまることで皆一人で階段を昇降出来転落なく過ごされている。		